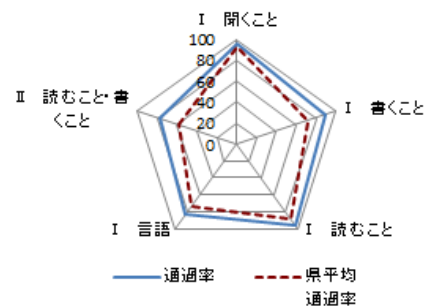


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 86.3%, 県 78.3%)

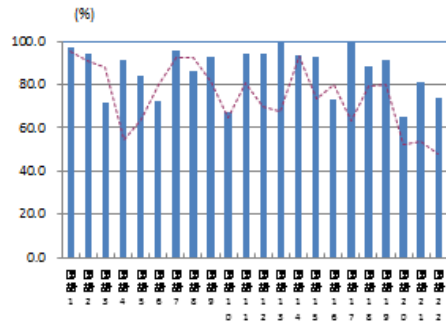
領域別平均通過率

領域別平均通過率(国語)



設問ごとの平均通過率

設問ごとの平均通過率(国語)



本年度の結果について

○全体的な傾向について

国語の結果において通過率は、タイプⅠが87.3%、タイプⅡは81.7%であった。この結果から、基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着していると考えられる。タイプⅡにおいても活用する力は伸びつつある。しかし、条件を読み取り条件に合うように解答する設問において、タイプⅠ、Ⅱとも通過率が60%台であることに課題があるといえる。

○昨年度の課題への取組の成果

昨年度、文章に入るふさわしい言葉を書き入れる問題に対して50%台の通過率であったが、本年度は90%台に伸びた。書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由を挙げて書くことの問題は50%台の通過率から、70%台に伸びた。日常的に理由を明らかにさせて書かせる取組の成果が表れたと考えられる。

重点課題

【課題1】

設問4(2)書こうとする目的に応じて、文と文のつながりを考えながら書くことの問題では、二つの文を選び一文で書くという条件にあてはまる文が選べなかったり、文章中のキーワードを見つけ、つないで一文で書けなかったりする児童が30%近くいた。(通過率73.0%)

【課題2】

設問5(2)や設問6の複数の資料から必要な情報を取り出し、それらを関係付けて自分の考えを書くこと、論理的に書くことの問題では、条件を満たさず、一つの条件で書いたり、条件が理解できていなかったりする児童が多く、必要な情報を取り出すことやそれらを関係付けて説明することに課題があった。(通過率、設問5(2)は69.3%、6は準正答を除く正答率50.9%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

書こうとする目的に応じて、文と文のつながりを考えながら書くことにおいては、文と文のつながりを考えられるように授業の中で、キーワードに線を引いたり、接続詞の働きを理解したりするなど、キーワードを見つけることや適切な接続詞を使うことの活動を習慣化させていく。また、キーワードや中心となる語や文を使って、要旨や要点をまとめる指導を継続して行っていく。

【課題2】

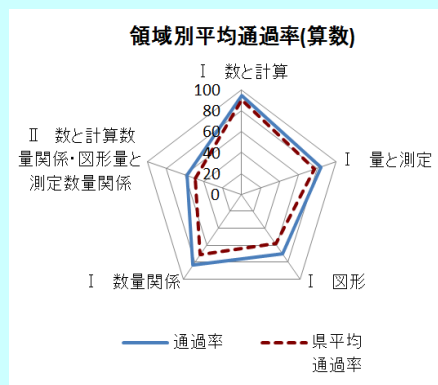
条件を満たす解答の方法を理解させるために、条件の内容を読み取ったり、理解したりする学習を繰り返し取り組ませる。また、短作文や作文学習の時間においても条件をもとに記述するといった学習活動を設定していく。その際、接続詞を用いて関係付けて考えを書く書き方も指導する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生 H27「基礎基本」		5年生 H27「全国学力」		4年生 H27「基礎基本」	4・5年生 単元末テスト
目標値		80.0%		60.0%		70.0%	80.0%
実施後数値							

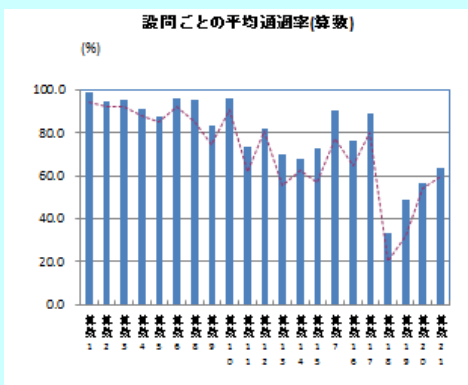
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生 H27「基礎基本」		5年生 H27「全国学力」		4年生 H27「基礎基本」	4・5年生 単元末テスト
目標値		80.0%		60.0%		70.0%	80.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 80.7%, 県 64.0%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向について
算数の結果において通過率は、タイプⅠが86.0%、タイプⅡは63.7%であった。この結果から、基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着していると考えられる。しかし、タイプⅠの「図形」の領域は通過率が80%以下の問題が複数あり、他の3つの領域と比べて課題が見られる。また、タイプⅡの数量関係を問う問題は通過率が35.6%であり関数的な見方に課題があると見られる。
- 昨年度の課題への取組の成果
昨年度、「量感覚」に関する問題に対して通過率は低かったが、本年度は、96%に上昇し、改善が見られた。

重点課題

【課題1】

記述式の問題以外で通過率が低かったのは、図形の領域に関する問題だった。図形の定義と性質（定理）や直方体の辺と面の垂直の関係の理解が十分でないといえる。(通過率68.1%, 69.9%)

【課題2】

折れ線グラフや棒グラフの特徴や傾向の読み取りと、複数の情報の中から適切な物を抽出し、条件を満たす時刻を導き出す問題ができていない。折れ線グラフと棒グラフを関連付けたり、与えられた条件を読み取り、筋道を立てて思考したりする力に課題がある。(通過率39.4%, 49.1%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題1】

作図や弁別、敷き詰めなどの活動の中で、児童自らが図形の構成要素などの言葉や図を用いて説明できるような活動を仕組む必要がある。また、具体物を操作させ理解の定着を図るとともに、児童に説明させる指導を行っていく。

【課題2】

一方の数量が増加するときの他方の数量の変化を捉えさせる関数的な見方や、2つの変化する数量の間にある関係を調べさせる。また、情報量の多い問題に取り組みさせる際には、問われている内容や分かっている内容を正確に捉えさせ、与えられた条件を整理させたり、自分なりの整理の方法を習得させたりしていく。

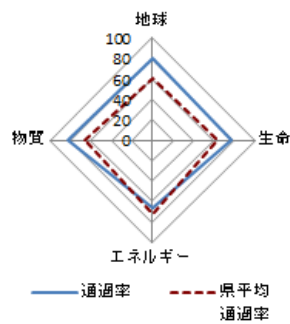
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 H27「基礎基本」		5年生 H27「全国学力」	4年生 H27「基礎基本」	4・5年生 単元末テスト
目標値			80.0%		60.0%	70.0%	80.0%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 H27「基礎基本」		5年生 H27「全国学力」	4年生 H27「基礎基本」	4・5年生 単元末テスト
目標値			80.0%		60.0%	70.0%	80.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 78.6%, 県 70.6%)

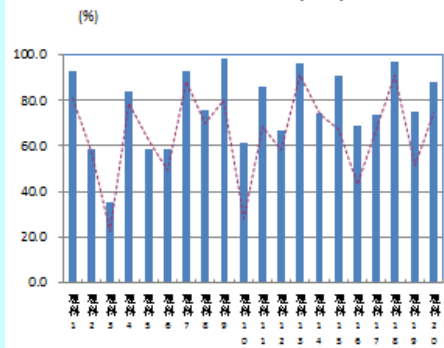
領域別平均通過率

領域別平均通過率(理科)



設問ごとの平均通過率

設問ごとの平均通過率(理科)



本年度の結果について

○全体的な傾向について

理科の結果において通過率は、タイプⅠが79.0%、タイプⅡは71.1%であった。この結果から、基礎的・基本的な学習内容はおおむね定着していると考えられる。しかし、「エネルギー」領域には60%以下の通過率の問題があったり、全ての領域で通過率が70%以下の問題があったりすることから課題があるといえる。

○昨年度の課題への取組の成果

昨年度は、「地球」領域問題の通過率が、タイプⅠで64.5%、タイプⅡで46.7%と低かったが、本年度はそれぞれ84.7%、73.8%に伸びたことから、「地球」領域における「知識・理解」及び「思考力・表現力」が育ってきていると考えられる。

重点課題

【課題1】

「エネルギー」領域の並列つなぎの回路のつなぎ方や光電池の特徴の問題の通過率が低く、身の回りの自然現象に対する知識・理解及び思考・表現の力が身に付いていないと考えられる。(通過率35.0%, 58.9%)

【課題2】

のこぎりクワガタを観察して体を頭・むね・はらに分けてその理由を説明する問題では、適切にキーワードを用いて記述することができていないことから理科用語を正しく理解し、分かりやすく説明する力に課題がある。(通過率61.3%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

乾電池2個の直列つなぎと比較しながら、並列つなぎの回路を作らせたり、乾電池の並べ方とモーターの回る方向や電流の強さを関係づけながら調べさせたりする。また、実験したことを図や文章で的確に表現できるように日頃から習慣付けるようにする。

【課題2】

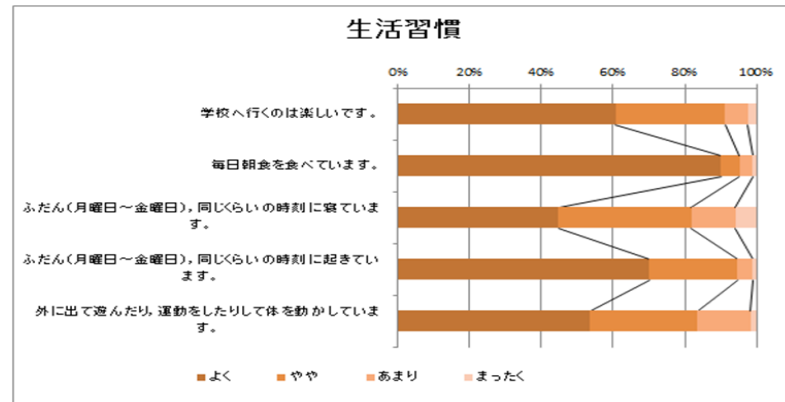
日頃の授業で、教師自身が理科用語を意図的に使用することで、理科の時間での言葉の使い方が児童に定着していくようにさせる。また、観察の視点を明確にし、社会科や総合的な学習とも関連付けながら継続的に観察を行わせていく。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生 単元末テスト	5年生 H27「基礎基本」			4年生 H27「基礎基本」	4・5年生 単元末テスト
目標値		80.0%	80.0%			60.0%	80.0%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		5年生 単元末テスト	5年生 H27「基礎基本」			4年生 H27「基礎基本」	4・5年生 単元末テスト
目標値		80.0%	80.0%			60.0%	80.0%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

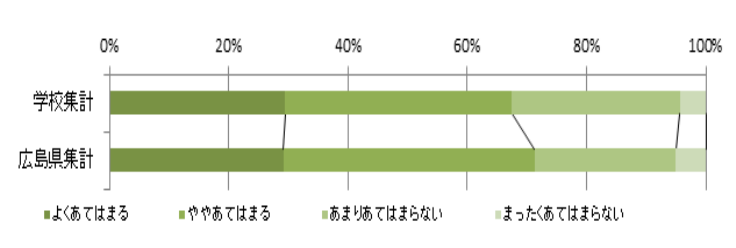
(1) 生活・学習



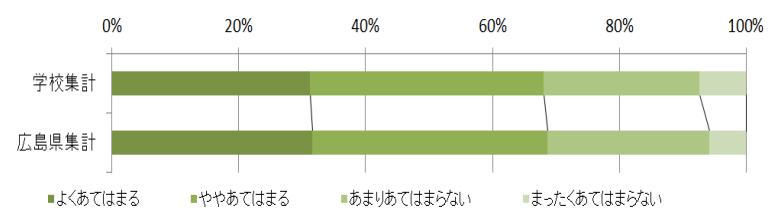
児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
自分で勉強の計画を立てていないと回答した児童が41.7%いる。特に, 11.7%の児童は, 全く自分で計画を立てていないという現状である。	授業では, 「課題発見・解決学習」の過程を意識して単元構成を行い, 課題の設定からまとめ・創造・表現までのつながりの大切さを実感させる。家庭では, 全校で自主学習に取り組み, 疑問をもったり, やってみたいと思ったりした時に, 解決までの計画を立てる力をつける。	5年	勉強の計画を立てていない児童 35%以下	児童アンケートを実施して検証する。	12月		

(2) 教科

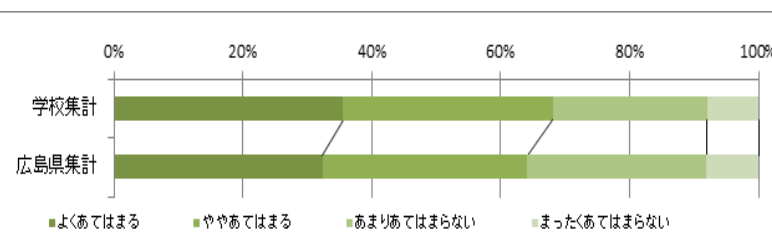
国語の授業では, 伝えたいことの方がうまく伝わるように, 話の組み立てを考えて話したり, 話の中心を考えながら聞いたりしています。



算数の授業では, とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では, 自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	国語の授業では, 伝えたいことの方がうまく伝わるように, 話の組み立てを考えて話したり, 話の中心を考えながら聞いたりすることができない児童が32.5%いる。特に, 4.3%の児童が全くできていないという現状である。	伝えたいことの内容を明確にして話すために話型を設定したり, 話の中心を考えながら聞くためにメモの取り方を指導したりする機会を設ける。	5年	組み立てや中心を考えない児童 25%以下	学習アンケートを実施し, 検証する。	12月		
算数	算数の授業の中で, 解き方や考え方を話し合うときに, 理由を挙げて説明することができない児童が31.9%いる。特に, 7.4%の児童が全くできないという現状である。	授業の中で, 理由を言うときの話型を設定し, それに基づいて言えるように継続的に取り組み, 習慣化していく。	5年	理由を言えない児童 25%以下	学習アンケートを実施し, 検証する。	12月		
理科	理科の授業の中で, 自分の考えをまわりの人に説明したり, 発表したりすることができない児童が, 31.9%いる。特に, 8.0%の児童が全くできていないという現状である。	授業の中で, ペアやグループなどの小集団で自分の考えを説明したり, 発表したりする場を毎時間意図的に設ける。	5年	説明や発表をしない児童 25%以下	学習アンケートを実施し, 検証する。	12月		